

感染状況・医療提供体制の分析（1月13日時点）

【1月14日モニタリング会議】

区分	モニタリング項目 ※①～⑤は7日間移動平均で算出		前回の数値 (1月6日公表時点)	現在の数値 (1月13日公表時点)	前回との比較	(参考) これまでの最大値※6	項目ごとの分析※4	
感染状況	①新規陽性者数※5 (うち65歳以上)		1029.3人 (126.6人)	1698.9人 (200.7人)		1029.3人 (2021/1/6)	総括コメント	感染が拡大していると思われる
	潜在・市中感染	②#7119（東京消防庁救急相談センター）※1における発熱等相談件数	109.9件	87.4件		117.1件 (2020/4/5)	新規陽性者数は、これまで経験したことのない速度で増加する中、接触歴等不明者の割合が増え、その増加比は爆発的な感染拡大を疑わせる水準となっている。実効性のある感染拡大防止策をただちに行う必要がある。 個別のコメントは別紙参照	
		③新規陽性者における接触歴等不明者※5	697.6人	1096.3人		697.6人 (2021/1/6)		
		増加比※2	138.1%	157.2%		281.7% (2020/4/9)		
	検査体制	④検査の陽性率（PCR・抗原）（検査人数）	14.4% (6,799.3人)	14.2% (10,224.4人)		31.7% (2020/4/11)	総括コメント	体制が逼迫していると思われる
医療提供体制	受入体制	⑤救急医療の東京ルール※3の適用件数	79.6件	117.1件		100.0件 (2020/5/5)	医療提供体制が逼迫し、通常の救急医療も含めて危機的状況にある。破綻を回避するためには、新規陽性者数を減らし、重症患者数を減少させることが最も重要である。 個別のコメントは別紙参照	
		⑥入院患者数（病床数）	3,090人 (4,000床)	3,266人 (4,000床)		3,090人 (2021/1/6)		
		⑦重症患者数 人工呼吸器管理（ECMO含む）が必要な患者（病床数）	113人 (250床)	141人 (250床)		113人 (2021/1/6)		

※1 「#7119」…急病やけがの際に、緊急受診の必要性や診察可能な医療機関をアドバイスする電話相談窓口

※2 新規陽性者における接触歴等不明者の増加比は、絶対値で評価

※3 「救急医療の東京ルール」…救急隊による5医療機関への受入要請又は選定開始から20分以上経過しても搬送先が決定しない事案

※4 分析にあたっては、上記項目以外にも新規陽性者の年齢別発生状況などの患者動向や病床別入院患者数等も参照

※5 都外居住者が自己採取し郵送した検体による新規陽性者分を除く。

※6 前回の数値以前までの最大値

総括コメントについて

1 感染状況

<判定の要素>

- いくつかのモニタリング項目を組み合わせ、地域別の状況等も踏まえ総合的に分析

<総括コメント（４段階）>

-  感染が拡大していると思われる
-  感染が拡大しつつあると思われる／感染の再拡大に警戒が必要であると思われる
-  感染拡大の兆候があると思われる／感染の再拡大に注意が必要であると思われる
-  感染者数の増加が一定程度にとどまっていると思われる

2 医療提供体制

<判定の要素>

- モニタリング項目である入院患者や重症患者等の全数に加え、その内訳・内容も踏まえ分析
例）重篤化しやすい高齢者の入院患者数
- その他、モニタリング項目以外の病床の状況等も踏まえ、医療提供体制を総合的に分析

<総括コメント（４段階）>

-  体制が逼迫していると思われる
-  体制強化が必要であると思われる
-  体制強化の準備が必要であると思われる／体制強化の状態を維持する必要があると思われる
-  通常の体制で対応可能であると思われる